していくことが必要である。本研究では，教科等外の領域に注目し，学習環境の整備も含め，その有効な活用法を考えた。

(1)　学習環境の整備

生徒がパソコンをいつでも自由に使えるよう配置，解放し，主体的にパソコンを活用できる環境を整えた。

(2)　活用の具体策

主体的に活用させる方策としては，「創意の時間」及び「休み時間」においては，以下の実践が行えるようにした。

①キーボード操作能力を身に付ける。

フリーソフトの「キーボードトレーナー」を使用し，操作能力向上を図る。

②簡単な文章を作成する。

ワープロソフト，簡易エディタ等を使用し，日本語変換の基本的操作を身につける。

③ゲーム感覚のソフトを活用し，個人またはグループで作品を作り上げる。

ワープロで作成した問題をクイズ形式に変換するフリーソフトを使用した。センターからは，参考にK中学校の郷土資料を基にクイズを作成し提供した。

4　情報活用能力の変容

研究対象を1，3年生及び教師に絞って実施した。評価の方法は情報活用能力育成のための上位目標3つと，その因子を12項目設け，評定尺度を基に問題を作成し，5段階で評価してその変容をみた。

（平成元年度教育センター研究紀要参照）

・情報の処理と創造力の育成

→　収集，選択，処理，創造，伝達

・情報化社会の認識と情報モラルの確立

→　特質，影響，重要性，責任

・情報手段の理解と操作能力と習得

→　基礎，特徴，操作

教師は指導という立場から，さらに3項目追加した。

・情報教育の必要性と，授業への活用

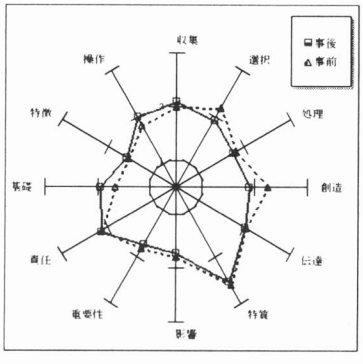
→　必要性，活用意欲，活用方法

グラフにおいて，評価が3以上はプラス思考，3以下はマイナス思考の度合いを表わしている。

（平成6年4月，平成7年1月実施）

(1)　生徒側の分析と評価

＜中学校1年生＞



「情報の処理と創造力の育成」は，パソコンに対するリテラシーが向上した段階で実際にいろいろなソフトを活用しながら，データを選択，処理し作品等を作成することで身につけられる要素である。授業での活用機会が少なかったことを考えると，この段階は今後の活動の中で向上するものと考えられる。

「情報社会の認識と情報モラルの確立」は，パソコン操作等の面の向上には影響されない。毎日の学習活動など様々な要因が影響する部分である。従ってある程度意図